

令和元年度高知県子ども読書活動推進協議会 指標の達成状況

資料3

第三次高知県子ども読書活動推進計画の指標及び目標値											
取組方針	指標	担当	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3 目標値	
1	① 読み聞かせ運動に参加している保育所・幼稚園等の割合(%)	幼保	—	—	—	72.8	78.1			75.0	
	② 保護者・図書館・ボランティア等の連携の実施率(%)	幼保	81.9	87.7	88.3	86.8	86.8			95.0	
	③ 読書が好き・どちらかといえば好きな割合(%) 【全国学力・学習状況調査】	小	78.6 《73.0》	78.8 《72.8》	78.4 《74.6》	78.3 《74.3》	—	78.4 《75.0》			80.0
		中	72.2 《69.4》	71.2 《67.9》	73.8 《69.9》	72.5 《69.9》	—	70.6 《68.0》			80.0
	④ 家や図書館で普段(月～金)の読書時間が10分以上の割合(%) 【全国学力・学習状況調査】 ※H26年度調査より、「学校の授業時間以外で…」に変更	小	67.5 《64.7》	68.1 《64.2》	65.6 《63.5》	63.7 《63.3》	67.6 《66.2》	67.0 《65.7》			75.0
		中	58.2 《53.0》	57.9 《52.2》	54.0 《49.7》	54.6 《51.4》	59.9 《53.5》	54.0 《50.4》			70.0
	⑤ 家や図書館で普段(月～金)に全く読書をしない割合(%) 【全国学力・学習状況調査】 【高知県オリジナルアンケート・高等学校課】	小	16.1 《19.3》	16.3 《19.9》	17.4 《20.6》	18.5 《20.5》	16.1 《18.7》	16.1 《18.7》			8.0
		中	28.2 《34.3》	29.2 《35.0》	31.9 《37.2》	31.7 《35.6》	25.5 《32.9》	31.0 《34.8》			15.0
		高	—	—	—	39.7	42.2	43.7			25.0
	⑥ 昼休、放課後、休日に学校図書館や地域図書館を利用する割合(%) 【全国学力・学習状況調査】	小	68.0 《70.7》	68.5 《69.1》	66.3 《68.7》	65.7 《67.2》	—	69.8 《69.9》			70.0
中		43.7 《41.7》	46.3 《42.7》	44.4 《41.7》	44.3 《41.9》	—	48.1 《44.5》			50.0	
⑦ 特別支援学校で読書週間を設定している割合(%) 【県教委調査】	特支	62.5	62.5	62.5	75.0	75.0				75.0	
⑧ 学期に1回は、図書・視聴覚便りを発行している割合(%) 【県教委調査】	特支	50.0	62.5	75.0	88.0	75.0				87.5	
2	⑨ 公共図書館との連携・交流をしている割合(%) 【学校図書館の現状に関する調査】	小	82.5 《79.9》	82.3 《82.2》	—	—	—	—	—		90.0
		中	56.1 《52.4》	56.7 《57.5》	—	—	—	—	—		60.0
		高	52.9 《47.7》	55.9 《51.1》	—	—	—	—	—		60.0
		特支	62.5 《29.6》	— 《36.6》	50.0 《—》	63.0 《—》	88.0 《—》				75.0
	⑩ 読書ボランティア活用率(%) 【学校図書館の現状に関する調査】	小	70.1 《81.1》	73.4 《81.4》	—	—	—	—	—		80.0
中	27.1 《28.1》	31.7 《30.0》	—	—	—	—	—			35.0	
3	⑪ 学校図書館を活用した授業の計画的実施率(%) (月に数回程度以上実施) 【全国学力・学習状況調査】 ※H28年度より、「学校図書館の資料を活用した…」に変更	小	50.2 《47.6》	49.2 《43.1》	39.4 《42.6》	39.4 《42.6》	—	—	—		55.0
		中	11.9 《10.4》	14.7 《11.7》	23.3 《11.4》	23.3 《11.4》	—	—	—		20.0
	⑫ 普段の授業で、本やインターネットを使って、グループで調べる活動をよくやっている児童・生徒の割合(%) 【全国学力・学習状況調査】	小	71.8 《77.3》	84.4 《90.8》	89.0 《91.9》	88 《92.6》	—	—	—		95.0
		中	55.6 《46.5》	69.7 《78.0》	76.1 《82.2》	85.1 《83.5》	—	—	—		85.0
	⑬ 学校図書館図書標準の達成率(%) 【学校図書館の現状に関する調査】	小	—	59.4 《66.4》	—	65.1 《—》	—	—	—		65.0
		中	—	38.5 《55.3》	—	42.3 《—》	—	—	—		45.0
⑭ 学校司書(学校図書館担当職員)の配置率(%) 【学校図書館の現状に関する調査】	小	60.2 ◆11月時点 《54.5》	59.2 ◆11月時点 《—》	55.2 ◆11月時点 《59.3》	—	—	—	—		全国 平均	
	中	56.7 ◆11月時点 《52.8》	55.3 ◆11月時点 《—》	52.5 ◆11月時点 《57.3》	—	—	—	—			
	高	100.0 《66.5》	100.0 《—》	100.0 《66.9》	100.0 《—》	100.0 《—》	100.0 《—》	100.0 《—》			100% 維持
4	⑮ 児童レファレンス件数(件)	県図	1,925	2,059	2,378	1,849	5,340			5,100	
	⑯ 協力貸出冊数(冊)【含児童書】	県図	26,556	26,345	31,132	42,450	22,245			32,000	
5	⑰ 「子ども司書」認定者数(人)	生涯	—	—	67 (5市町)	54 (5市町)	55 (6市町)	45 (7市町)			毎年度 100名
	⑱ 読書ボランティアリーダーの養成	生涯	—	—	—	—	—	—			60名 以上

取組方針1:発達段階に応じた読書活動の推進 取組方針2:地域や人とのつながりを深める読書活動の推進 取組方針3:学校教育における読書活動の推進
取組方針4:オーテピア高知図書館による読書環境の充実・強化 取組方針5:子どもの読書活動を推進する人材の育成

(分析)

①～② (幼保支援課) ・保育者、保護者に対する園内研修等を通して、発達に合わせた本の選び方や読み聞かせの仕方などを具体的に教えることにより読み聞かせの大切さを啓発するとともに、選書の参考として「絵本 おはなし宝箱」の活用を助言することができた。 ・保護者・図書館・ボランティア等の連携実施率では、小中高生、保護者、図書館職員との連携が年々増加している。小中高生との連携が活発になっており、幼児とのふれあいや幼児の発達に合わせた選書、読み聞かせのコツの伝授など、教員同士の打ち合わせ等も含めた保幼小中の連携が活発になってきている。
③～⑥ (小中学校課) ・「読書が好き・どちらかといえば好き」と回答した児童生徒の割合は、本県として大きな変化はなく、全国よりも若干高い傾向にある。しかし、目標値には達していない。 ・「学校の授業時間以外に、普段(月曜日から金曜日)、1日あたり10分以上読書をする」と回答した児童生徒の割合は昨年度よりも下回っている。また、中学校においては、昨年度比-5.9ポイントと大きく下がっている。全国よりは若干高い傾向にあるが、目標値には達していない。特に中学校においては、目標値を大きく下回っている。 ・「学校の授業時間以外に、普段(月曜日から金曜日)全く読書をしない」と回答した児童生徒の割合は、全国よりは少ない傾向にある。中学校の割合は昨年度比+5.5ポイントと大きく上昇しており、約3割の生徒が普段全く本を読まない状況である。小学校、中学校ともに目標値を大きく下回っている。 ・「昼休みや放課後、学校が休みの日に、本(教科書や参考書、漫画や雑誌は除く)を読んだり、借りたりするために学校図書館や地域の図書館を利用する」と回答した児童生徒の割合は、小学校では全国とほぼ同程度、中学校では全国を3.6ポイント上回っており、目標値をほぼ達成している。 ③④⑥の質問に対して、小学校より中学校の方が肯定的な回答が少なくなる。また、⑤の質問「学校の授業時間以外に、普段(月曜日から金曜日)全く読書をしない」と回答した生徒がたいへん多くなる。
(高等学校課) ・不読率に関するアンケートの設問は、「あなたは、学校や家などで読書(マンガを除く)を週にどの程度しますか」である。 ・アンケート対象は、県立高等学校の全ての生徒である(令和元年度は35校(分校を含む))。ただし、平成29年度については学校によって対象学年が異なる。 ・高校1年4月時点での不読率は、平成29年度が31.0%、平成30年度が34.1%、令和元年度が36.0%であり、年々増加している。 ・全体としては、高校1年次の特に前半に不読率が高くなり、その後は、高校2年から高校3年にかけて、やや改善される傾向にある。 ・しかし、令和3年度の目標値である25.0%と現状の数値には依然として開きがある。 ・なお、朝の読書を実施している高等学校は18校あるが、その中にも「まったくしない」と回答している生徒が一定数いることから、回答内容に朝の読書を含んでいる生徒と含んでいない生徒がいることが考えられる。
⑦～⑧ (特別支援教育課) ⑦読書週間の設定:H29、H30年度は75%と目標値に到達している。本校で6校中5校が実施。重度重複障害の児童生徒が多く在籍する特別支援学校では「読書週間」という形でなく、児童生徒の実態に合わせて読み聞かせ等、日々の学習活動の中で読書活動に関わる取組を進めていると確認した。 ※読書週間未実施の学校に対して、図書環境整備を含めた状況確認を行うとともに実施に向けて働きかけを行う必要がある。 ⑧図書・視聴覚便りの発行:H29年度は88%と目標値に到達していたが、H30年は75%であった。図書・視聴覚便り等については、障害種、障害の状態により教員が発行している場合と児童生徒が係活動として取り組む場合がある。H30年度は児童生徒の実態により取り組めなかったという学校が1校あった。 ※児童生徒が読書活動に興味関心を持ち、広げるための、障害特性や実態に配慮した計画的な取組が必要である。
⑨～⑩ ・「学校図書館の現状に関する調査」は5年毎に実施することになっているため、次回は令和2年度に調査が行われる予定。 (小中学校課) ・該当なし (生涯学習課) ・平成29年度の調査を基にした高知県読書ボランティア登録簿への登録者数は164団体、1,451名。 ・近年では「地域学校協働本部事業」の実施校が増加(H29:189校 → R1:268校(予定))。地域の読書ボランティアグループによる読み聞かせ等の取組がその活動に組み込まれているケースも多い。 ・平成30年度において地域学校協働本部事業の活動・取組として報告されているだけでも、135校で読み聞かせが実施されている(内訳:小学校105校、中学校29校、小中一貫校1校) 地域学校協働本部事業における活動の紹介や実践発表等を通じて、学校での読み聞かせ活動に読書ボランティアグループの活用を促していく。それと同時に、読み聞かせの技術力を向上させる手段・機会の提供として、ボランティア養成講座の開催を周知することで、地域人材の活用を促し、活動しやすい環境が整い、学校における読書ボランティアの活用率を高めることができるのではないかと考えられる。
⑪～⑭ (小中学校課) ・該当なし (高等学校課) ・学校司書(学校図書館担当職員)の配置率については、今後も100%を維持していく予定である。 ・(文部科学省による「学校図書館の現状に関する調査」は実施されていないが、学校司書の配置率については高等学校課にて確認済み)
⑮～⑯ (県立図書館) 2018年度、オーテピア高知図書館のこどもカウンターで受け付けたレファレンスは、事項に関するものが414件、所蔵に関するものが4926件、合計5340件。全てが児童からのレファレンスではないが、この件数は令和3年度の目標値を上回っている。今後も利用者への積極的な声掛けやフロアワークに努める。
⑰～⑱ (生涯学習課) ⑰年々「子ども司書養成講座」を実施する市町立図書館は増えているが、実施年度によって認定者数に開きがある。今後、養成講座への参加数を増やしていくためには、学校側の制度に対する理解と協力がより必要とされている。しかし、図書館が単独で学校長に取組の趣旨の説明を行い、協力を仰ぐには負担が大きいことから、橋渡し役として市町村教育委員会の支援がこの取組を進展させる重要な要因であると考えられる。 ⑱現在、取り組めていない状況にあるが、県内の読書ボランティアグループや地域学校協働本部事業における地域ボランティアを対象とした、読み聞かせの技術を向上させるより専門的な研修を読書ボランティア養成講座の「地区別講座」の中で実施できないか検討している。 また、グループ間の連携を取りやすくするため、読書ボランティア名簿を提供できるように来年度実施される調査要項等の見直しを図る。